

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
共通教育科目	101	2年	前期	臨床検査学科	必修	科学論 Science Studies	15	1
担当教員								
松村 美紀								
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
○	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
○	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
科学的判断をめぐる様々な歴史的・現代的事例を通じて、科学とは何か、科学的とはどういうことかを考える視点、判断する能力を養う。								
到達目標（授業目標）								
	① 科学的な思考、科学的理解、科学的な判断をできるようになる。							
	② 科学的思考を妨げるものに気づき、科学と疑似科学、非科学を区別できるようになる。							
	③ 科学的安全性と危険性の評価、科学の有用性と経済性のバランスについて議論できるようになる。							
	④ 科学倫理、科学者および専門家の責任と倫理について議論できるようになる。							
	⑤ 自然科学研究の進め方について理解する。							
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	科学史上で画期的な発見とその背景となった研究を紹介し、科学的な思考の進め方について講義する。							
2回	科学的な思考、科学的理解、科学的な判断について講義する。推定できる事象と手がかりもない事象の違い、相関関係と因果関係の違い、可能性・蓋然性・必然性の違い、絶対的な価値評価と相対的な価値評価の違いから科学的理解、判断とは何かについて概説する。							

3回	科学的思考を妨げるものについて講義する。分かっていることと、分かっていないことの区別、認識のパラダイム変換を明確にすることから、科学的真理とは何かを概説する。また未知、無知と不安につけ込む非科学的主張・宣伝の存在や、疑似科学、非科学的思考とはなにかについて講義する。
4回	科学的安全性と危険性の評価、科学の有用性と経済性のバランスについて講義する。
5回	科学倫理、科学者および専門家の責任と倫理について講義する。
6回	科学技術がもたらす有益性と不利益性、専門家としての責任、役割、科学技術の応用に関わる倫理問題について講義する。
7回	自然科学研究の進め方には一定の約束事やルールがある。実験研究の目標、目的のたて方の合理性・妥当性、実験の進め方や記録のとり方、考察のしかた、客観的な証拠として他者に認めてもらうために必要なことについて講義する。
8回	これまでの講義内容に基づき、科学とはどのようなものであり、どのように利用できるのか、議論する。
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	
成績評価方法及び基準	
小論文により評価する。60点以上を合格とする。	
教科書	適宜プリント等の教材を配布する。
参考図書等	
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）	
関連科目	
前科目	
後科目	117 実践と研究
実務家教員	

備考	
----	--